

# 2022年度 4歳児公開保育研修会 保育を見よう 保育を語ろう

令和4年10月26日(水) 参加者15名

## 本日のスケジュール

9:00~11:45 保育実践の参観

12:15~12:30 実践をめぐる語り合い (D.D.)

12:30~13:45 休憩

(環境を自由に参観していただいたり、学年担当者のD.D.の映像を見ていただいたりする時間を含みます)

13:45~14:45 「問い」をめぐる語り合い (グループ協議)

15:00~15:40 グループ協議をめぐる語り合い

## 語り合いの概要

幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント—対話し省察することをつなぐ 実践・記録・研修・会議・社会—

協議会では、「共に「学び」を創る」ことを体験する機会として、D.D.で話したことを元に、同じグループのメンバーでそれぞれが関心を持った場面や、なぜそこに興味を持ったのかについて対話し、自分に問うことで自分を見つめ直す時間を持ちました。そのうえで、自分の中でどういう学びが生成したのかや、今後考え続けたいことについて共有し、改めてそれぞれの保育観や実践を見直すことになりました。

グループごとの対話では、先週から今週にかけての実践における意味生成の記述や、当日の実践の様子から、遊びが「つながる」「つなぐ」とはどういうことなのかや、ルールを考える、共有するということが話題になりました。

## 共に「学び」を創る

・与えられた「課題」に対応するのではなく

・「わたし」は何を思い考えるか  
どうしてこの子どもが気になるのか？  
どうしてこの教師の言葉が気になるのか？  
どうしてこの教材が気になるのか？  
→「わたし」にとっての意味を言葉にする

・正解を探るのではなく 問い直し  
新たな意味を見出す

## 語り合いの内容 (抜粋)

### ○グループ協議の振り返り

- ・教師としては子ども同士がつながって遊んでほしいと思う。教師がつながようとするのではなく、子どもがそれぞれ遊びを楽しんでいくことで最終的に周りの遊びとつながっていく。まずは子どもの遊びが面白くなるように環境構成や援助をすることが必要である。
- ・遊びの中でルールをあえて教えず、困ることで子ども自身にルールの必要感が出てくる。教師が子どもに願うものが、子どもにとって意味があるものになるために、教師は待ってみるといいのではないか。

### ○対話を通して得たそれぞれの学び

- ・教師が上からではなく一緒になって遊ぶことが大切だと感じた。ルールを教師が教えるのではなく、子どもから困り感が出て決めていく、それが主体性なのかなと思った。
- ・つながるとはそもそもどういうことなのか、つながることは大切なのか。本質を自分で考え、振り返るきっかけになった。
- ・子どもの主体性って何だろう。個の中の主体ではなく、いろいろなものや人に出会い、引き出されていく、分かち合っていく、ストーリーを共有していく。それが重なりあうのが協同なのか。対話をしながら当たり前を問い直しておく。

## 参加された先生方の声

お忙しい中 ご参加ありがとうございました。

- ・保育での子どもとの関わり方を見ていて、D.D.の時間が自分の保育を見直すきっかけになった。改めて保育観はみんな違うと感じた。
- ・つながるとつなげるの違いについて学ぶ機会になった。ルールもクラスの実態に合わせて進めていくことの大切さを学んだ。
- ・当たり前に使っていた自主性や主体性など、もう一度考えることで、もやもやしたところもあつたが、深く考える機会になった。
- ・園内環境のあちこちに、子どもの思いが活きていると感じた。全体活動の中でも、子ども一人一人の思いも大切にしようとしてしっかり見つめられていると感じた。
- ・「対話」を自園でも大切にしたいと感じた。正解はない、立場も関係ない、滞っても間があってもいい…自由感の中でこそ自分を語れるのだと感じた。